

“棲神” 総目録 (創刊号(大正2年)より 第45号(昭和48年)まで)

▶ 発刊回顧 ◀

“棲神”の歴史は、わが身延山教学発展の歩みである。発刊当初任時を願りみれば、同学同窓諸賢の研鑽或は随感を吐露する場であり、旧交を暖める同窓会・校友会誌的性格が濃厚であった。

そのような、同窓会誌的雰囲気のみならず次第に、日蓮教学や仏教学の基礎的研究の場へ開発され、更には質量共に学的内容が充実、第2次世界大戦前夜には学術機関誌の地位を固め、発展途上にあった。

然るに大戦の長期化と激化と共に大政翼賛体制下に摂入され“棲神”の内容も戦時色を濃くせしめられるにいたり、強力な経済統制は出版事業にも波及し、昭和18年ついに発刊中絶のやむなきに至った。

昭和20年8月、終戦を機会として祖山の教学活動が再開された。そして内外から“棲神”を復刊せよとの声が高まったが、戦後の窮迫した経済情勢下に雌伏すること8ヶ年、ようやく機熟して昭和28年復刊第1号(通算第29号)を発刊することができた。同誌には前年度、本学で開催された「第5回日蓮宗教学研究大会」の紀要を掲載し、復刊の壮挙を飾ることができた。尚、復刊号より戦前の「同窓会文学部」発刊の永年の伝統が改められ学園の教育財源を充当する。予算処置が講じられるに至った。

時恰も、学制改革に相遇し、本学園も従来の「祖山学院教学財団」から「学校法人身延山短期大学々園」へと法人組織の変更がなされた。これを機会に“棲神”発刊は身延山短期大学々会に委ねられ、新たに人文・社会・自然の諸科学の領域が組みこまれ、新制の学術機関誌へと脱皮、現在に至っている。

ともかく、“棲神”発刊60年の歩みを総目録として回顧することにした。

いま諸先輩の論稿を拝するとき、それは期せずして、その時々日本仏教学界或は、わが教団内の学的问题点と関心を如実に示す、特異な編年史的資料をなしている。総目録としては不備なものであるが、読者諸賢の研究上に裨益あらんことを望むものである。

◇目録作成に当り、全号数の蒐集に努力したが、第3号、第13号の欠号を出した。

◇目録中、※印あるは編集子の註記である。

◇本学教授林是幹先生からはバックナンバーを揃えるうえで御便宜を頂いた。記して謝意を表します。

昭和48年12月14日

編集作成 町 田 是 正

・第1号（創刊号）（祖山学院同窓会文学部刊（大正2年10月31日）謄写版・A5、P.62 和綴

身延山御書

発刊の辞

秋の気分

友人の晋山を祝し併て自己の希望を送る書 高二 伊藤海聞

※海聞師は、後年、宗内屈指の布教家として名声を馳せ、晩年、大本山池上本門寺貫主となる。

嗚呼吾祖の示涅槃 中五 望月海伯

苦学の光 中三 荒木経明

病弟慰問の状 中一 勝見賢栄

送僧（漢詩） 亀口東冥

身延山（漢詩） 竹 鶯

高祖御廟へ朝参之記 高二 麻生是忍

奥の院へ登るの記 中二 三和連城

秋の或夜の月 △ 生

甲府善光寺に詣てし所感 溝田在庵

西谷御艸庵参拝の記 中一 岡 観孝

小春日和 中一 辻 能学

散歩の一夕 中四 黒 簀学勇

本妙律師追慕会の一夜 中四 望月清月

一日一節 中四 早川玄頂

須磨の浦にさまよいて 中三 紫 篁 生

◇和歌・俳句 中三 小林 貞 宜

◇会報一本会沿革概要一 ◇祖山学院同窓会々則

◇役員 会長 小泉日慈、副会長 関本龍門、講演部長 小林是恭
文学部長 青木見孝、運動部長 遠藤是妙、会計監督 亀口龍謙

- ◇講演部記事 ◇運動部記事 ◇文学部記事 ◇雑報
 ◇金品寄贈者芳名 ◇会員異動

・第2号（第巻卷第貳号・大正3年4月10日・祖山学院同窓会刊）
 A 5 . P.22

身延山本堂（写真）

「棲神」一身延山御書一節

慈悲の活用		暁 星 洞 主
奥山の影より		帰 山
人格中心の研究法		白 風
救ひのみこゑ		駄 諫 生
椿の花		△ 生
徴兵に出る友に与ふ		山 内 慧 戒
我が国旗		辻 能 学
雪中の竹……………望月宗康	日記帳より……………H	生
吾人の目的……………市川是温	淋しい身延……………岡 観	孝
雨後の秋……………黒 籙 学 勇	布教の心懸け……………友 井 能	慈
海……………伊 藤 海 聞	運命（詩）……………荒 木 経 明	
銀世界（詩）……………荒 木 経 明	◇漢詩三首	
◇芬和歌二首	◇俳句七首	

◇同窓会々報一講演部・文学部・運動部一

◇降誕会記事

◇金品寄贈者芳名

・第3号（大正4年4月刊）一欠本一

・第4号（大正5年2月18日，祖山学院同窓会刊）A 5 . P.43

祖山学院の歌（表紙裏）

宗体決疑抄（承前）		中 山 祐 師 作
石山寛師の本尊義一本尊論議史の一節		Y S N
◇梅花映日（和歌）		森 亮 遠
聖語の文底秘沈に対する私見		上 木 龍 慶
台当二家依経科釈の同異に就て像末両導師の立脚地を論ず		郭 風 生
無宗教者を如何にして導くべきか		黒 籙 学 勇
宗祖折伏の第一義……………溝 田 玄 静	宗教と実生活……………小 林 貞 宜	
折空観と体空観……………太 田 純 志	御会式に就て……………藤 田 圓 海	
佐渡御勘気鈔 拝読後の感想……………佐 藤 秀 温	行学二道……………猪 口 海 静	

古りたる杉……………今村野風
 分衛日記(身延詣
 での一節) ……望月素溪
 図書室の窓より……………鳴峰生
 ◇御大典旅行(御嶽山系)

奇瑞……………楓葉山人
 偶感……………黒田学誠
 和歌(二首)……………森亮遠
 ◇房総参拝記

・第5号(大正5年9月15日, 祖山学院同窓会刊) A5. P.59

宗体決疑抄(承前)

中山祐師作

教機時国抄大綱

泉義敬

聖祖の国家観

黒藪学勇

我……………藤田鷺風
 吾人は奈何に生く
 べき歟 ……森亮遠

入妙の直路……………左庵生

趣味と生活……………望月嘯月

かたる花……………猪口海静

頼むべきは……………松木秋月

鷲峯印象記……………露月

宗祖の御銅像を拜
 して……………小林貞直

如何にせば意義あ
 る生活をなし得る歟 ……望月本啓

宗祖の御威徳……………井上恵妙

宗祖の御伝記を拜
 読して……………中村義明

我は本化の門下也……………江原一夫

報恩謝徳……………渡辺泰深

延山の春暁……………柳緒生

人生と労働……………辻芦洲

本化妙宗の信行……………赤島潮旭

本院内諸堂案内記……………山内慧戒

◇同窓会記事一講演部(降誕会講演, 幻灯会) 文学部, 運動部, ◇豆州盃

跡参拝記

飯井野御牧……………吉田素恩

たどりし路(詩)……………宮南

※「松野殿女房御返事」。「筒御器抄」等に見える所謂「三箇郷」の文献学的研究

・第6号(大正6年2月20日, 祖山学院同窓会刊) A5. P.66

宗体決疑抄(承前)

中山祐師作

観心本尊抄遠記

身延遠師作

本尊論議変遷史論

吉田素恩

宗祖本仏論に対す
 る瞥見 ……望月海伯

教義時国抄大綱
 (承前) ……泉義敬

論妙法五字与三大
 秘法関係 ……藤田光肇

祖書中に顯れたる…藤田恵暁述
 撰折二門義門分別…小坂田竜教記

新年を迎えて……………黒藪学勇

宗門の前途……………溝田在庵

高踏超然……………樋口是端

聖祖の忠孝観……………松木秋月

青年僧侶の自覚……………菊地泰旭

自殺の可否……………小川圓如

日常生活と信仰の
 必要 ……川口智随

濁末の靈光……………中村義明

新春のさけび……………鈴木本開

鷹取山……………山内慧戒

春暁……………森亮遠

望める悲哀……………雪二生

元旦（漢詩）……………竹鷺（早川）　こしをれ（和歌）……亮　遠
身延に詣でて……………古　童　庵

◇同窓会記事—本学院出身者住所—

◇三角山龍華寺…銅子量海
に参る

◇講堂新築（祖山学院校舎として
昭和42年まで本館となる。）

◇木村龍寛師講演「印度文明の新旧」

◇講演部—幻灯布教，法難会説教　◇金品寄附者芳名

・第7号（大正6年7月15日・祖山学院同窓会刊）A5・P.70

宗牀決疑抄（漢文体）	中山祐師作
第八識存在の証明	吉田素恩
本抄と十法界抄との交渉	泉義敬
寿量五百塵点に対する私見	望月本啓
論妙法五字与三大秘法係関（承前）	藤田光肇
観心本尊鈔発記（漢文体）	大野堯師作
◇緑陰午睡（漢詩）…早川竹鷺	
最蓮房上人	溝田在庵
精進……………川口智随	論本宗之宗義並相承…辻能学
本迹一致勝劣を論ずる所以…荒木経明	聖祖の御人格……………猪口古童
初夏の小吼……………太田純志	身延山御書を拝して…北嶋精学
如何にして進むべきか…福島瑞岳	迷信を打破せよ……………山間道人
三日坊主の代表者…結城瑞光	異体同心……………二宮龍忍
宗祖の孝道……………佐藤慈典	宗教家の覚醒……………隴月生
心臓譚……………K O 生	◇春季修学旅行記…菊地泰旭
◇同窓会記事…井上円了博士講演（6月12日）	◇大正六年春季修学旅行隊金品寄附者御芳名

・第8号（大正7年4月15日・祖山学院同窓会刊）A5・P.76

観心本尊抄発記（承前）	大野堯師作
宗教の本義……………中村凡愚	顕本論より見たる成仏…溝田在庵
天台四教儀大要……………藤岡柳風	論相承与付囑関係…佐藤秀温
秘論……………山岡義哲	興師身延離山に付て…望月本啓
仏教に及ぶる上代印度の宗教思想	荒木経明
宗教と宗致との管見…中村義明	◇歌日記より……………亮　遠
真の生命……………松木秀月	余の宗教観……………川口智随
余の宗教観……………辻能学	咄仏徒……………結城瑞光

意義ある生活……………正	己	小さな愛国心から	猪口古童
		平和を望む人へ	
無題録……………太田純志		日蓮主義と戦争……………露	月
宗祖の御生涯……………鈴木順暁		吾は久遠の仏子なり…北島江楓	
偶感……………珂月生		常住の春……………池上義圓	
心の私語……………深山木生		時計の響……………加奈江	

◇雑報一講演部。文学部。運動部。金品寄贈者芳名。

・第9号（大正8年3月15日・祖山学院同窓会刊）A5・P.60

立法華肝要集	延山日叡上人
新時代の歓喜	藤田宮南
宗教の本義（承前）	中村凡愚
当家願本論概要	菊池泰旭
鎌倉殿中間答考	藤田高肇
論相承与付囑関係	佐藤秀温
三秘論（前承）……………山岡義哲	興師身延離山考……………太田純志
余の宗教観……………小坂田正己	信仰と安心……………辻能学
化人よりは自行を	法華行者の折伏と
先に	追害……………鈴木順暁
先ず糧を与えよ……………松木秋月	

・第10号（大正10年7月20日、聖誕七百年紀念）A5・P.96

校歌（表紙裏）

日蓮聖人御真蹟阿仏房鈔（久遠寺所蔵）写真

祖山学院長小泉大僧正猊下並教頭関本僧正（近影）

巻頭の感

聖誕七百年恭賦（漢詩）

立法華肝要集（承前）	龍山日淵謹草
仏教史上に於ける日蓮教義の特色	延山日叡上人
鎌倉殿中間答考（承前）	清水龍山
日本仏教史より観たる日蓮上人	藤田光肇
成仏論祖判文証類集	堀龍淳
三熱の炎と偉大なる暗示	藤田沼南
布教伝道の規範	荒木経明
日蓮主義とは何ぞ	川口智随
善日磨の使命……………志村皓堂	辻能学
宗教的体験の価値……………かなめ	改造の真意義……………小林峰月
	蓮華色の出家を讀みて……………太田純志

聖き涙……………秦 観 行	聖誕七百年に際し て世人に訴ふ……………高 瀬 教 闡
奉迎七百年聖誕……………結 城 瑞 光	自覚せよ青年僧侶……………戸 田 峰 仙
虹影の凝視……………岡 観 修	学問の軌範……………高 山 恵 忍
古きノートの中より……………南 陽 栄 昭	過去より現在へ……………江 原 亮 勇
聖誕七百年にちな みて……………津 田 春 暁	身延の夕暮……………高 崎 一 二
偶感……………井無田 寿水	

◇留学生派遣（泉義敬・松木本興・藤田光肇） ◇第九回（大正10年3月）
卒業生名 ◇学校職員及び受持学科 ◇本学年各学級々監及び正副級
長

◇三月の窓から……………か な め
◇金品寄贈者芳名 ◇祖山同志会設立趣意書

・第11号（第二巻第一号・昭和12年2月16日刊・宗祖御入山六百五十年
紀年号）A 5 . P.109

巻頭一言

本尊の賛文年代に就て	鈴 木 文 亮
日蓮聖人門葉之管見	太 田 純 志
日蓮聖人の宗教と価値的批判	結 城 瑞 光
信仰の寸心を改めよ	志 村 皓 堂
念仏思想史に対する余の管見	福 島 瑞 岳
魂の郷地を求めて	高 山 恵 忍
能化と所化	深 沢 雪 童
聖日蓮之奮斗	間 宮 観 応

◇聖訓一御義口伝。開日抄。佐渡御書。一

御草庵……………下 田 冷 涙	月の囁き……………中 林 蓮 風
本化的文化生活……………岡 鳴 月	私の生命観……………渡 辺 泰 深
偶感……………小坂田 龍 教	抱かれむか本仏の 懐に……………二 宮 龍 広
平和の建設……………堀 内 義 光	慈悲に就て……………吉 川 啓 善
友の霊に手向くべ き詩と文……………江 原 白 線	棲神閣に詣で……………照 月
理智の母（詩）……………太 田 赤 童	哺乳類のいろいろ……………平 地 光 瀾
陸奥に咲ける百合花……………佐 藤 海 澄	自然と人生……………富 田 海 音
反省と努力……………広 瀬 潮 憲	夏の宵……………木 村 弘
秋の歓喜……………高 橋 是 明	魂の叫び……………中 林 良 陽
歩むべき道……………四 寛 涙 草	寺院と酒に就て……………秋 永 露 翠

山寺（漢詩）……………東	溟	か細き秋雨……………鍋	屋 寛 明
寂寥（詩）……………秦	観 行	郊外の夕……………秋	永 露 翠
魂の行へ（民謡）……太	田 赤 童	調落の初冬……………小	松 観 学
遠くなります……………結	城 瑞 光	菊（和歌）……………投	句 者 多 数
創作・浄行……………伊	丹 優 曇 華	創作・転変……………下	田 冷 涙
不幸なる哲人の物語…高	崎 一 二	◇編集雑記	

◇講演部—雄弁大会（大正12年6月25日・11月29日）

◇文学部 ◇運動部—テニス峡南大会出場。弓術。

◇金品寄贈者芳名—当時の祖山教学の情勢を知る資料となろう。一

・第12号（号数なし。大正13年10月3日。祖山学院同窓会文学部刊）

A 5 . P . 8 0

卷頭言

祖書読感随筆	台 水 日 治
日蓮聖人門葉之管見（承前）	太 田 純 志
念仏思想史に対する余の管見（承前）	福 島 瑞 岳
立正安国論読後の所感	静 溟 生
吾が崇拜せる大聖人	吉 田 曙 人
如何にして人心を統一し国民精神作興の実を挙げべき乎	古 童 毎 水
科学は果して宗教を葬むる乎	富 田 海 音
文化説	静 溟 生
支那回教徒の運命観	大 峰 龍 正
四顧寂莫……………三	基 生
人生の富……………長	瀬 龍 光
芬陀利の峯……………H	・ M 生
御山の暁……………渡	辺 智 栄
涙……………深	敬 道 人
我が書齋……………二	宮 龍 敞
お山の夕景……………寒	川 生
追憶……………覚	林 道 人
民謡・漁夫……………平	地 幽 嶺
夢……………重	松 ひ さ し
聖丘を望みて……………高	山 し の ぶ
思ひ出の記……………鳥	海 山 人
雑想三篇（漢文体）…静	溟 生
復興……………吉	川 啓 善
偶感……………S	・ K 生
静寂を破る響……………吉	益 正 光
凝視……………今	泉 智 旭
子の幼かりし時……………S	・ Y 生
伝説を語る漁夫……………覚	林 道 人
培はれたる小百合……………丸	山 其 撰
残骸……………寛	明 庵

◇関西地方修学旅行記 ◇会報—弁論部報。文学部報。運動部報—

・第13号（不明・欠本）

・第14号（号数なし。昭和3年11月20日・祖山学院同窓会文学部刊）

A5判．P.106

巻頭言—思想善導—

日蓮聖人の見たる仏教史観	高田 恵 忍
吾祖と三階仏法	塩田 義 遜
仏子の進むべき大道	丸山 嶺 孝
宗教現象に対する一考察	近藤 恵 聡
真の宗教への道……………矢野 鍊 明	民衆の宗教化……………方 哲 源
亜細亜の目ざめ……………中屋 教 海	明るい世界へ……………矢谷 智 秀
宗教的生命の深さ……………竹多 快 照	微笑（俳句十二首）…福山 一 步
身延の自然……………三木 浄 達	聖祖御入山を懐ふ（詩）…石井 緑 線
思ひ出のままに （水郷の里にて）…間 宮 夢 覚	本妙律師を慕ひて……………三木 浄 達
七面山へ……………吉田 碧 洞	天理を訪れて……………矢野 鍊 明
鮮支旅行記……………方 哲 源	近況十首（短歌）…黒崎 与志雄
琵琶湖—悲曲 「涙の光」…吉田 孝 秀	除夜の鐘（詩）……………矢野 鍊 明
感謝（詩）……………福士 泰 量	短歌（四首）……………石井 緑 線
テニスして……………歩 牛 生	詩—弱きものの歎き…黒崎 与志雄
童謡—天上と下界—…橋 爪 要	心の唄き,忍従,祈り 戯曲—或る男と信 仰の巡査…木村 鍊 戒
仏様と道すがら……………田代 静 山	

◇同窓会会報 弁論部だより（三木生）・運動部報（吉田生）・文学部報（田代生）

・第15号（昭和4年12月10日・祖山学院同窓会出版部刊）A5．P.192

学院長貌下（杉田日布上人）及び校舎之一部（写真）

巻頭言—文学の使命

岳 南 生

◇論説

信心銘（伝大士の語をかりて）	高田 恵 忍
筒御器鈔の法門—附・謀叛者二十六人に就て—	塩田 義 遜
宗教に於ける超厭世的傾向	永 倉 唯 嘉
座右之銘……………竹 庵 遺 稿	艸山三章……………艸 山 集
仏説法滅尽経読後の感	松 木 本 興
身延文庫蔵本・行学朝師奥書集	江 利 山 義 顕
※「身延文庫」調査者の必携資料である。身延山史研究上の裨益は大きい。	
原始仏教々団に於ける平等思想と其帰結	結 城 瑞 光

生と哲学的精神	望月舜勝
重罪犯にて刑務所にある某真宗徒に送れる手紙	綱脇龍妙
日持上人の遺跡を訪ねて	望月是順
身延の実相	渡辺正教
筆と心	木村鍊戒
現代社会の要求する人物	方哲源
虚空蔵菩薩と蓮長法師の祈願	武田快照
事一念三千が如何にして信心義なりや	堀内義光
日精上人書簡類蒐集に就て	三木浄達

◇文芸◇

友情……………松田寿孝	思親閣より秋をた つねて……………松井恒成
随感片々……………矢谷清文	日記中より……………柳井栄
野中春秋……………遠藤霞外	短歌一身延雑感……………小島一誠
秋……………岳南生	短歌……………石井緑線
小鳥……………中沢要実	人生巡礼……………近藤恵聡

◇同窓会々報一庶務部，弁論部，運動部，文学部一

◇学友会々報一九州学友会，北陸学友会，関西学友会，東北学友会，鷺峯学友会一

・第16号（昭和6年2月16日・祖山学院同窓会文学部刊）A5・P.232

◇第一部研究欄

本化題目宗の仏教史的意義	高田恵忍
身延の御真蹟に就て	塩田義遜
我	永倉唯嘉

※研究の論点をカント・ヘーゲル・リカードに置き自我の考察を進める。

身延文庫本・行学朝師奥書集 二	江利山義顯
創作・恩誓いづれか	綱脇竜妙

◇延嶽詩叢 寂照院日乾 一円院日脱

◇第二部学生欄

成仏観	堀内義光
当家の下種論について	武田海正
たどるべき道	吉田孝秀
哲学的部門より観たる台当両家	黒崎政信
生活戦線と宗教問題	津田歆貞
随感・凡身礼讃	貫名英雄

思ふままの記	樋口哲雄
微かなる者の信仰	大沢恵宏
本化建宗の根本精神に還れ	半沢経一
随感断片	桜栄都城鶴
教育勅語煥発第四十周年記念を迎えて	柳井慈要
支那訳経史研究後之感	吉田鍊正

◇詩歌

延山四季……………武田海正	短歌・近詠数首……………石井緑線
夕べの想……………中沢小樹	不変の理……………中沢小樹
四季……………松村芳仙	人間劇場……………佐藤翠嵐
身延の一とせ……………小島一誠	

・第17号(宗祖六百五十遠忌記念号・昭和6年10月13日刊)A5. P.194

身延山八十二世祖山学院々長岡田日掃院下近影

日蓮聖人と法華経

清水龍山先生講述

※法華経観に於て、天台の「智」の經典に対し、宗祖の「智慧」「慈悲」の経典観を論究。

緑陰幽草録(暑中休暇草)

高田恵忍

御遺文蒐集史上に於ける上古三聖

塩田義遜

身延の声明

多紀道忍

身延文庫蔵本・行学朝師奥書集 三

江利山義顯

※久遠寺「身延文庫」調査のうゑで必携必読の資料を提供する。

延嶽墓碑私考

今村是竜

寿量本仏論

堀内義光

原始仏教に於ける三蔵の成立に就て

谷口亨存

吾祖の時機適化せる五戒の提唱

中沢葉爾津

感想・思想の涙……………遠藤養宗

映画布教に巡りて……………梅津英学

唱題得意論……………田中義臣

人間生活と物……………古谷智謙

山里の一年……………半田淀車

◇雑報 校友会報(松木本興) 同窓会報一庶務部(深沢海見)。弁論部(依田湛淳)。文学部(柳井慈要)

・第18号(昭和8年1月30日・祖山学院同窓会文学部刊)A5. P.306

弘決外典抄・礼記正義(重要文化財指定)写真

天台靈応図本伝集(写真)

棲神の法窟

遠藤是妙

宗祖所立の本尊は己身本尊也
再び「御書新目録」の著者に就て

身延文庫の録内外目録
信

嵩か森に就て
青森県宗門史要

唱題の妙行

日蓮宗の安心を読む

古愚学人

身延山布教の特殊性

智識・道徳・宗教に関する断想

追憶

戒思想に就て

境妙庵目録小考……世古政順

機械から目的へ……矢谷玄智

久遠本仏と吾等衆生…福士泰量

信仰界の鐵籠……金川龍洗

恋愛と宗教とに於ける共通性を論ず

津田 歆 貞

常闇を放れて

ようじ津(中沢要実)

矛盾より解決へ

E・Y 生

信念に生きよ

藤原 是 祥

現代宗教家の覚悟

馬場 恵 信

感想・「魔坑の後に立ちて」

門田 正 孝

獅子王の如き心

加藤 智 学

土牢を訪ふ

菊田 雄 寿

満洲事変の渦中より

田 中 次 郎

◇文芸◇

龍泉余韻……八朶高田恵忍

病む父……福島 義 孝

別頭の丘……渡 辺 信 覚

故郷にて……桜庭 司 一

西谷にて……桜庭 是 宝

秋日和……杉 本 寒 風

◇昭和六年度卒業論文(17名)

◇同窓会報一庶務部・弁論部・運動部・

文学部・本学寄宿舍雑報・

・第19号(昭和8年12月20日・祖山学院同窓会文学部刊) A 5 . P.212

本妙庵・竜口寺参詣記念(写真)

祖山学院寄宿舍厚德寮全景(写真)

身延御入山の聖意に就て(其一)一国家諫暁と身延御入山一

龍 山 謹 述

開会関	遠藤是妙
「観心本尊抄」四十五字法体段正義	山川智応
身延山久遠寺」門前町に就て	法学博士 平沼淑郎
※身延文庫(久遠寺所蔵)の古文献調査に基き、主に「法度」「掟」の制から観た門前町考。	
仏教の要行としての三大秘法	塩田義遜
宗教の本質に就ての一考察	望月舜勝
御靈跡を通して聖意を開示すべし	静堂生(松木本興師)
日蓮聖人の女性観	津田歆貞
即身成仏に就て	灘上恵教
信と行と学に就て……児島鍊戒	仏徒は酒をのんが よいか…竹多快昭
信仰物語・鬼母録……世古政順	偶感……………落井良昭
臨師研究ノートより…中里是要	随感断片……………歯瀬価輪環化伊
聖蹟を慕ひて……………佐々光二	近代の思想観……………加藤智学
犠牲……………田川義烈	小春日……………三井芙蓉
病問余詩(漢詩)…八朶高田恵忍	病榻茶禪(漢詩)…八朶高田恵忍
随感詩集……………金川荷積	◇日記より◇……………桜庭是宝
◇身延山に題する (和歌)…渡辺正教	◇小湊(和歌)…田川恵良
◇暑中の折々……………小島一誠	◇聖境の歌(和歌)…渡辺信覚
◇俳句一桜庭是宝。田川恵良。吞海。	◇川柳一桜庭生。虚言。田河泡。

・第20号(昭和9年12月・祖山学院同窓会文学部刊) A 5 . P . 240

宗学の淵源	遠藤是妙
山川智応氏の「観心本尊抄四十五字法体段正義の結論」を拝す。	
本宗の本尊観概説	清水竜山
清澄寺草創考	半 訥
開目鈔・本尊鈔・報恩鈔の三鈔に顕はれたる本尊の研究	塩田義遜
末法時機相応の実践的宗教	武田海正
醒悟園開祖本妙日臨律師の研究	中沢ようじ津
偉人鳩摩羅什	中里是要
法華経の六万九千三八四に就て	吉田鍊正
日蓮宗学新指針	柳井慈要
◇文芸◇	室住一妙
吟榻日乗(漢詩)…高田八朶	噫藤田光肇君……………松木静堂

盆と行事……………田川 恵良 厚徳寮々歌について…浅野たけし
 誦経礼讃……………宇佐美 鍊正 栖神居詠草……………福島 義孝

・第21号（昭和11年2月5日・祖山学院同窓会文学部刊）A5 . P.310

身延文庫蔵古写本「日蓮聖人仰之趣」写真

新発見の聖伝資料（身延文庫蔵古写本） 室住一妙 註記

題目の考察 遠藤 是 妙

観心本尊鈔と生死一大事血脉鈔との鑽仰対照 中谷良英 稿補
 清水 竜山

※本尊抄「四十五字法体段」をめくり、山川智応師の論難に答えた論作。

本尊義旨帰 高田 恵 忍

◇身延山学会々則

妙法蓮華経字数考 塩田 義 遜

※いわゆる「六万九千三八四一々文々是真仏」の経文字数の考察で、71頁に及ぶ
 労作。

◇歌集から 松田 寿 孝

身延文庫余滴 江利山 義 顕

東陽房忠尋師と房舎に就ての考察 田中 恵 春

◇雑詠 熊谷 利 道

身延文庫に於ける不受不施係争の資料 斉藤 要 輪

宗教と芸術について 望月 舜 勝

性論雑考 今村 是 龍

仏陀最後の教誡（長阿含経による研究） 武田 海 正

己心問答 守屋 宣 雄

「戒体即身成仏義」に於ける聖祖の見地を論ず 三木 浄 達

本化の行法と戒壇論 中沢 要 実

日蓮聖人御系譜の研究 鈴木 智 好

◇縁覚独語訳 一仙 散 史

◇道余風韻 古梅 清水 竜 山

◇緒余吟 高田 八 朶

◇短歌一栖神居 詠草一…福島 義 孝 黎明……………中村 邦 八

鶯のこえ……………渡辺 信 覚 駄句集……………田村 孤 雪

雑詠十句……………帯金 嫩葉子 子に過ぎたる宝なし…浅野たけし

晩秋に題す……………斉藤 順 義 感謝法悦の実現……………下邨 顕 浄

◇祖山学院雑報（武田生） ◇同窓会々報一庶務部（田辺正知），会計部

（四辻宣有）弁論部（古川宣悦），運動部（草ヶ谷宣慶），房総旅行記

(古川宣悦), 文学部(岡村正雄)

・第22号(昭和12年2月13日・祖山学院同窓会文学部刊) A5 . P.270

身延山八十三世祖山学院々長一乗院日謙院下近影

祖廟中心

遠藤是妙

※宗政、教学、行法、信仰、各立論から多角的に把えた祖廟観仰論。

題目性乗弁一山川氏四十五字己心義余評一

高田恵忍

◇身延山学会々則◇

大曼荼羅儀陸の研究

塩田義遜

※曼荼羅の起源、遺文にみる教観本尊、始頭曼荼羅の意義、儀相に及ぶ労作

身延古抄雑々集に就ての考察

岡教選

東陽房忠尋の著書に就て

田中恵春

正中山蔵「正義抄」に就て

斉藤要輪

御遺文にあらわれたる下種思想

武田海正

人生観断想

望月舜勝

身延御入山と南部実長

三木浄達

独居不三昧

中沢要実

日蓮聖人御系譜の研究(続)

鈴木智好

◇文芸部◇

讚仏乗詩問居余舛 清水竜山。向井教遠。富木堯広。亀口竜謙。高田恵忍

棲神居詠草……………福島義孝

古き遠保栄我記……………山田友篤

うみやまのほとり……岡村正雄

蟬……………上田文忠

七面山行 熊谷利道

必要にして且つ充分なるもの…田辺正知

三つ子の魂に与ふべきは…加藤智学

観の究竟……………田中泰勳

宗祖霊跡伊豆と船守弥三郎…田中静光

斗争……………田村啓孝

想い出す函館……………村田力男

正しく強き信仰をもつて…梅津栄希

◇校友会報一庶務部(田中恵敬), 会計部(下邨顯浄), 弁論部(宇佐美鍊昌), 運動部(香川是光), 祖山学院春季修学旅行(引卒, 松木本興, 武田海正), 文学部(牛居行信)

・第23号(昭和12年12月18日・祖山学院同窓会文学部刊) A5 . P.160

宗祖御消息断片(大阪市成正寺蔵)写真

聖徳太子に就ての一考察

柴田嶺秀

開会思想

遠藤是妙

清澄寺大衆考

塩田義遜

日蓮正宗小笠原慈開師の「先づ本尊を定めよ」を読みて宗祖本仏論及神本
仏迹論の非を糾す

中谷良英稿 清水龍山閱

純粹宗学の理念とその展開

室住一妙

御遺文にあらわれたる下種思想（前号続）

武田海正

内房尼についての一考察

三木浄達

宗学への悩み

中沢要実

日蓮聖人御遠祖・藤原共資公

鈴木智久

諫暁

田辺正知

結核克服に当りて

松井大周

如何に生く可き乎

宇佐美鍊昌

楽土建設への歩み一祖山学院雄弁大会優等第二席賞

香川是光

時局と立正安国一祖山学院雄弁大会優等賞杯

米村智浄

◇文芸◇

病む。岡山に遊ぶ。…岡村教正

雑詠……………田村孤雪

晴雲……………後藤康信

厚德寮断章……………寮隅住人

◇校友会々報

◇祖山学院校友会々則

◇同窓会々報 ※当時の弁論活動。運動部の対外試合など、活潑なる祖山学院の動きを知る好資料

・第24号（特編「法主即管長制度確立讃辞」昭和13年12月25日刊）A 5 .
P.290

宗祖御遺文断片（滋賀県本像寺蔵）写真

観心の法門

遠藤是妙

興門教義に対する一研究一本尊抄に於ける「本門釈尊」と「地涌千界」及
本尊図面に於ける「日蓮花押」に就て「宗祖本仏本尊」の謬を匡す一

清水龍山口述 中谷良英筆受

※第2次大戦後、「創価学会」が主張した「日蓮本仏論」に対する決定的批判資料ともなる。

・「立正観抄」に対する疑議に就て

山川智応

優陀那輝師の浄顕義浄評に就て

小林是恭

「妙法寺記」並にその原本に就て

塩田義遜

本宗重要教判としての教観相对と種脱相对とに就て

中谷良英

日蓮聖人遺文に於ける国神勅請義

望月敏厚

◇法主即管長制度確立讃辞

祖廟中心制度の現在と将来	塩 出 孝 潤
法国冥合の現証	柴 田 一 能
給仕精神の高揚	堀 龍 惇
宗政復古に当り青年学徒の奮起を望む	柴 田 嶺 秀
即身成仏研究序説	室 住 一 妙
御遺文にあらわれたる下種思想 (前号続)	武 田 海 正
对支布教と我徒の用意	結 城 瑞 光
文学些言……………斉 藤 要 輪	立正治国論を拝読して……………中 沢 要 実
歴史の一環を担ふもの……………塚 本 龍 晟	陣中随想録……………小 崎 龍 雄
改造か創造か……………岡 部 祐	波木井書迹に於ける良の方の管見……………難 波 智 龍
信仰と人間生活……………証音寺 恵 進	レムブラントの創作に就ての遐想……………原 隆 二
愚思一編……………原 不 退	

◇文 芸◇

山清(短歌)……………斉 藤 慎 吾	白虎隊・嵐……………岡 村 教 正
母を思ふ……………小 林 学 山	煩惱讃歌(短歌)……………後 藤 龍 子
夏秋山麓居詠草……………石 川 国 武	拾ひ屑一束……………東 菫
叙景雜・御廟所……………原 不 退	俳句……………嫩葉子, 黒宮教文
随感運策……………望 月 海 順	時局と宗教……………永 瀧 堯 憲
吾人は斯く思惟す……………啄 人 生	世界と日蓮……………村 田 海 仙
落葉断想……………畑 崎 作	敬神崇祖……………斉 藤 哲 一
緑陰の下(蛇)……………東 菫 生	非常時に於ける吾等……………江 口 啓 淳
雨の夜更け……………磯 辺 涉	青年宗教家の覚悟……………沼を想ふ記……………小 林 是 淳
身延の鐘に想ふ……………黒 沢 龍 正	事変に際して日持上人を思ふ……………阿 部 東 洋
目 白……………近 藤 義 見	日記……………丘 竜 芳
鼠……………宮 崎 泰 賢	うれしかった事……………K . K
鳥の声……………原 田 鉄 雄	落葉……………山 本 栄 淳

◇校友会々報一出征名。・宣撫班名一

◇同窓会々報一幹事の辞。庶務部。会計部。弁論部。運動部。富士五湖旅行記。

※学園活動も次第に対外的に發展し、弁論も在京大学を招いての大会。又運動部も山梨県各大会に出場。

・第25号(昭和15年2月25日・祖山学院同窓会文学部刊) A 5 . P 269
宗祖御遺文断片(三重県寿量寺蔵)写真

靈山浄土観	遠藤 是 妙
本門事觀史	塩田 義 遜
日蓮教学中に交錯せる中古天台の思想及び様相	浅井 要 麟
予の安心立命	北尾 日 大
実践哲学としての一念三千	守屋 貫 教
哲学余滴（世界観人生観と哲学）	望月 舜 勝
宗学試案の中から	武田 海 正
純粹宗学本質論の資料と問題—即身成仏研究本論—	室住 一 妙
祖書綱要の四種三段判に於ける底上相對について	執行 海 秀
事相と事法門……………中 沢 要 実	外道の書—読書余談—…塚 本 龍 晟
おもひつくまま —宣撫通信—…小 崎 龍 雄	護法の理念とその 展開……………田 中 泰 励

◇文芸欄◇

道余風韻—芳野山 吟行—…永 滝 堯 俊	◇短歌—常住の日……………田 川 恵 良
短歌—冬春山麓居 詠抄……………石 川 国 武	◇短歌—生活煩惱……………辰 巳 紫
越後への旅……………原 田 見 正	故郷の夜……………井 上 龍 栄
山路……………積 海 潤	◇俳句……………田 川 恵 良。 維 由 紀
卒論の原稿を祖廟 に捧げ恩師に謝す……………小 林 学 山	思ふままに……………武 波 正 芳
「破奠記」隙見……………細 井 泰 行	絶対者の顕現……………池 上 泰 信
月夜……………須 崎 栄 磨	静かな朝……………小 松 本 秀

・第26号（祖山学院創立三十周年紀念・昭和16年3月5日刊）A 5 .

P. 232

宗祖御遺文断片写真

祖山学院々長望月日謙猊下色紙写真

波木井公一族と身延山

塩田 義 遜

※波木井公事蹟に関する多角的実証的研究。斯学研究者の必読文献・資料集。

本仏実在を中心とせる統融的宗教—日蓮聖人の宗教「観心本尊抄」の再認識—

山 川 智 応

新体制下における本質宗学よりの提唱

室 住 一 妙

※わが宗内において後年、純粹宗学・室住宗学と称せられる一つのアプローチ。但し戦時体制下の制約がみられる。

本尊の本体について

武 田 海 正

十如是事の研究

執 行 海 秀

ヘーゲルの宗教哲学

里 見 泰 稔

宗門の新体制と身延への希望と期待

大火所焼時

米国仏教の現情

興亜の基本工作

聖境に立ちて

蒙古の喇嘛教

給仕第一精神の検討

絶対的現実

人間の標尺

学窓を出でて祖廟に参籠し本化門下の使命を思ふ

桑港日蓮宗教会主任

Fohn David Provoo

恵寧寺喇嘛

富川日馨

綱脇竜妙

青柳正法

結城瑞光

西浜行順

丕日易来

中沢要実

幡上教妙

田中泰励

小林学山

◇文芸欄◇

蜜を得るには……………結城一郎

短歌—感情春秋—……………後藤康信

綴方教室—秋の追憶—……………原田見正

雑詠……………鈴木義成

四季の思出……………中村貫一

母……………久世寛瑞

俳句—二千六百春—……………田村孤雪

「番神問答記」隙見

鶴声……………細井泰行

戦線より還りて（祖山学院雄弁大会優勝鑑杯受領）

懺悔……………村田海仙

「学び」の観念……………石川是行

奉祝皇紀二千六百年……………福島義孝

短歌—河原辺—……………上田一夫

奉祝歌……………田川恵良

鷹取山……………甲賀俊男

日記抄……………辰巳紫

海……………長崎湛長

微笑・我が心……………藤沢玄唱

齊藤貫誠

戒律への抗議……………三枝光純

武内観良

学徒と大法西漸……………永田寿利

◇祖山学院同窓会々則—昭和15年10月改正（祖山学院教務課）

◇同窓会々報—庶務部（清水文要），会計部（黒宮教文），弁論部（酒井円通），文学部（石川是行），運動部（梅原鳳寿），音楽部（石川是行）

校友会々報，厚德寮々報，学友会々報

◇昭和十五年度祖山学院卒業論文題目一覧

・第27号（昭和17年3月10日・身延山専門学校・祖山中学・報国団文学部）A5．P.176.

高祖御遺文断片（静岡県玉沢妙法華寺藏）写真

宣戦之詔書

心性遺師真筆談義書治国利民皆由法華事……………昭和14年8月6日筆写畢・

正 亨 ㊦

伝教の円頓戒に就て	塩田義遜
大信の発動一本質宗学に於ける主体性の軌範一	室住一妙
当家三益論略説	端是信
別頭教観論	田辺正知
事成院日寿師とその教学	山田英寿
根本二部対立思考	望月海順
実に必要は機会を 生む…柴田一能	宗立学校の教育理念…宮沢英心
追憶……………唐津・藤山英憐	昇格を祝ふ……………武田海正
身辺小吟(短歌)……石川国武	人生への一考察……………野坂清健
私の茶道観……………中村貫一	

◇祖山学院卒業論文名一覧 自大正五年 至昭十六年

・第28号(昭和18年6月1日・身延山専門学校・祖山中学・報国団文化部) A5. P.192

高祖御消息断片(名古屋市・円頓寺蔵)写真

法華論の研究	塩田義遜
宗学とは何ぞ一絶対自覚の学として一	室住一妙
原始仏教に於ける善悪の意義	坂本幸男
日本道徳思想の性格	望月舜勝
仏教の自然観一教理の整理と批判のための覚書一	里見泰穂
人生苦と宗教	中沢要実

◇俳句一十首……………中村貫一

異部宗輪論に表れた大衆部の仏身観	望月海順
梵唄に於ける五声音	石川是行

◇短歌一背影。春の具象。決戦下陸軍記念日……………後藤安延

◇短歌一桜。想念。意気……………清野清資

◇戦線より帰りて……………後藤夷承

自我意識の宗教的展開……………田中寛光

仏教の現代的意義……………河村斌

爆進……………須磨弁能

◇報国団部報◇

総務部(幹事野坂清健), 国防訓練部(幹事田中寛光), 法儀部(幹事田中寛光), 文化部(幹事西浜行順) ◇身延山専門学校第二回卒業論文

・第29号(戦後復刊号, 昭和28年9月12日, 身延山短期大学刊) A5. P.183

日蓮聖人註法華経・心性第五度版法華経(文永八年刊)写真

復刊の辞	身延山短期大学々頭	松	木	本	興
唱題思想の根柢と其の帰結		塩	田	義	遜
純粹宗学の綱領的展開		室	住	一	妙
御消息文の分類研究—身延隱栖後—		斉	藤	龍	遊
同広中師について		秋	山	智	孝
「梵唄」に口伝された五調子とその旋法		石	川	是	行
原子論と仏教		坂	本	幸	男
有部に於ける存在の概念		里	見	泰	穩
靈魂不滅の問題		波	多	野	通
インフレーション心理		御	園	生	桂
					三
					郎

◇第五回日蓮宗教学研究大会紀要◇

諸法実相論—日蓮聖人の実相観		田	村	芳	朗
日蓮法華宗の現代的旗幟		浦	上	芳	武
教観双用法華經安心深敬讚講話		綱	脇	竜	妙
真言宗に於ける判教の網格私見		脇	本	日	禎
日蓮聖人書入本「註法華經」の版経について		兜	木	正	亨
身延・中山の關係		影	山	堯	雄
法華經成立史上に於ける見宝塔の重要性		木	村	日	紀
本門戒壇の性格		長	井	弁	順
無作三身の根本批判と本仏の根本開顯		河	合	陟	明
罪障消滅について		河	村	孝	照
プトン「善逝史」に引用せられし法華經に就いて		矢	崎	正	見
教義と教学		芹	沢	寛	哉
宗学観に於ける個的立場と種的立場		茂	田	井	教
給仕第一の精神		室	住	一	妙
龍華像師の布教について		高	木		豊
妙法華經に見られる文体上の特色		野	村	耀	昌
本門本尊の在り方—尊—一士正境論		高	田	日	潤
現代における日蓮主義の進路		高	木	大	幹
大般涅槃經の仏性論		勝	呂	昌	一
勢至菩薩經に就いて		中	村	瑞	隆
仏教的実在観の現代的意義		長	谷	川	正
					徳

◇棲神誌会員住所録(330名) ◇昭和27年度校友会回顧

・第30号(昭和30年10月13日身延山短期大学刊) A 5 . P.124

重要文化財「宋版礼記正義」(久遠寺蔵)写真

国宝・伝徽宗皇帝「絹本淡彩夏景山水図」(久遠寺蔵)写真

巻頭言一日蓮聖人御聖訓一

大曼荼羅儀相の再研究

塩田義遜

われらなにをなすべきか—現代と対決するものとして問題学的に考える—

室住一妙

法華取要抄の研究

上田本昌

祖山学院回願録(上篇)

林是幹

善を愛する者と神を愛する者(カルキンス「善人と善」の一部の邦訳)

梅沢敬蔵

理科における分団学習について—学習指導上に必要な二三の考察—

伊藤茂俊

解放前夜に於ける中国農村の生活—毛沢東の農村実態調査を例として—

町田是正

※旧来の政治・経済史中心の中国史研究の動向に対して、民衆の法的慣習からの考究を試みたもの。

徽宗皇帝筆夏景山水図に就て

波多野通俊

教育の原理に関する仏教哲学の一任務(一)

疋田英肇

◇学校近況報告—教科課程の増強。図書充実。教育事業の拡充(日本育英奨学制度認可。身延山学園師親会結成)

◇校友会記事—弁論部全国大会優勝。運動部テニスコート新設。

・第31号(学長米寿記念号・昭和31年10月10日) A 5 . P.96

深見日圓学長染筆・学長宛下略譜・学長近影

将来に想ふ

身延山短期大学々長

深見日圓

日蓮聖人の本尊(前篇)

塩田義遜

建設のための吟味—純粋宗学における問題学的領域—

室住一妙

本尊勧請形態の一考察

上田本昌

法華経に顯はれた時間

里見泰穂

※仏教の時間とは、永遠性とは、つねに時の流れを倒錯的に思惟することを示唆する。

華嚴経と観法—特に三聖円融観について—

坂本幸男

※華嚴教学の根本義について要説。仏教学界の重鎮坂本博士の寄稿。

ある倫理学徒の反省

梅沢敬蔵

宗歌の曲譜について

秋山智孝

中国農村に於ける法意識の変革—法慣習と土地改革の過程に於ける婦人—

町田 是正

仏教哲学における教育の原理 (続)

正田 英肇

・第32号 (昭和33年3月8日・身延山短期大学刊) A5. P.163

日蓮聖人の本尊 (後篇)

塩田 義遜

※宗祖の「本尊」論の決定的労作であり、宗学の本質に関わる重要な問題を提起する論稿。

宗門史上二三の問題について

影山 堯雄

体系といふこと

室住 一妙

日蓮聖人に於ける現生利益の問題

上田 本昌

※「現世利益」ではなく、「現生利益」(即身成仏)こそ宗祖の教えであると。新興宗教乱立に対する審世論。

当於如来余深法中示教利喜について—法華経覚書—

望月 海淑

マックス・ウェーバーに於ける「資本主義の精神」の研究

町田 是正

※資本主義「の」精神について、ウェーバーの業績を分析しつつ、所謂ビュリタニズムの経済史的意義を問う。

Cybernetics (サイバネテックス) についての一考察

佐藤 正夫

◇第9回日蓮宗教学研究大会紀要—昭和31年11月1日・2日—

日蓮大聖人御遺文に就て—種々御振舞書並に観心本尊抄—

岡田 興竜

染浄二性に就て

熊王 海潮

不受不施者の潜伏

宮崎 英修

注法華経の注記年代について

山中 喜八

歓喜の経典

斉藤 竜遊

法華経の真髓は如来行である

水谷 竜人

本仏の主体性とカントの認識論との交渉

森川 博祐

観音玄義の研究

若杉 見竜

法華経宝塔品の成立地域

野村 耀昌

小川泰堂居士に就て

小崎 竜雄

三法通局と本化妙行

中谷 良英

宗学における体系の問題

室住 一妙

◇「棲神」会員名簿 (昭和32年9月1日現在)

・第33号 (塩田義遜教授古稀記念号・昭和34年12月8日) A5. P.164

塩田義遜先生近影・染筆色紙写真

祝・塩田教授古稀

松木 本興

塩田義遜先生略年譜・塩田義遜先生著述並執筆目録

法華経に於ける願と受持譲与 塩田 義 遜

※「願」とは仏の衆生済度の慈悲であり、衆生の救済への希求でもある。文献学的研究所論。

体系の展開 室 住 一 妙

日蓮聖人と守護神信仰—日月明星を中心として— 上 田 本 昌

山規制定の経過より見たる久遠寺の推移 林 是 幹

法華経の虚空について 望 月 海 淑

※法華経成立史上よりみた「虚空」の意味、訳経上の異同について、分析考究した論稿。

三世について 里 見 泰 穂

華北村落に於ける宗教意識に就て(研究ノート)—解放前夜の宗教的慣行—

町 田 是 正

W・B・イエイツ小論 桐 谷 四 郎

通師法縁について 林 是 幹

「棲神」会員名簿(昭和34年10月31日現在)127名

◇受贈交換誌一覧 ◇昭和34年度身延山短期大学卒業論文題目一覧

・第34号(昭和36年3月31日刊・※バックNo.35号は34号の誤り)A5.

P.101

体系的対決 室 住 一 妙

日蓮聖人の政治批判について 上 田 本 昌

天親・龍樹の内鑑冷然に就て 塩 田 義 遜

原始分法華経における般若波羅蜜 望 月 海 淑

E・S・キュービー「中国史学の基礎」—邦訳と研究入門—

町 田 是 正

※中国古代史研究と調査の留意点を要説。訳者の補註は詳細で斯学志向者の至便なガイド。

アメリカ文学に於けるピューリタニズム小論 大 森 孝

◇「棲神」会員名簿(昭和35年10月31日現在)

・第35号(昭和37年2月25日・身延山短期大学仏教学会)A5. P.133

法華経の本尊としての曼荼羅 塩 田 義 遜

道徳的次元の問題について 室 住 一 妙

開目抄鑽仰(一)科段 室 住 一 妙

デーヴァダッタの神通 長谷川 義 浩

華北農村の家族制について(研究ノート)—同族的結合と家族構成の数量

的考察一

町田 是正

アメリカ文学に於けるナチュラリズム形成とドライサーの位置について

大森 孝

◇昭和36年度卒業論文題・氏名 ◇交換誌一覧

・第36号(祖山学院五十周年記念号・昭和37年10月5日刊) A5 . P.164

日蓮聖人御婦倉より身延入山まで 松木 本興

日蓮聖人に於ける道徳的次元(後篇) 室住 一妙

日蓮聖人に於ける「願」の研究 上田 本昌

※聖人の生涯は「願」(四海帰妙・立正安国・衆生済度)の実践であった。その悲願・大願の宗学的意義。

法華経解釈に於ける吉蔵の法雲批判 里見 泰穂

女人成仏一變成男子について一 望月 海淑

法華経に現れた神通 長谷川 義浩

仏教保育の基本問題 秋山 智孝

積尊の敬虔に思う 猪俣 康光

華北農村の家族制について(研究ノート第三輯)一同族的結合と族産との関係一 町田 是正

中国に於ける近代革命思想の発達と清朝の滅亡について 堀 一勇

ヘミングウェイに見る生と死なるもの 大森 孝

祖山学院五十周年記念・祖山学院回廊録 林 是幹

※多年に亘る身延山の資料に基く生きた学園変遷略史。

・第37号(昭和38年12月8日・身延山短期大学学会刊) A5 . P.163

日蓮教団に於ける教化・伝道の考察 上田 本昌

立正平和運動 室住 一妙

※昭和37年以来展開された運動に対し、その本来的在り方を問うべく聖祖にかえれと訴える情熱の論。

提婆達多品における女人成仏について(1) 望月 海淑

上総における初唱の檀越墨田氏とその性格 佐久間 珧甫

高等学校社会科「倫理・社会」における日蓮聖人の取扱いについて 長谷川 義浩

マックス・ヴェーバーの社会科学方法論の一研究 町田 是正

阿片戦争一その意義と特質について一 堀 一勇

ヘミングウェイを中心とするロスト・ジェネレーションについて 大森 孝

◇第15回日蓮宗教学研究発表大会紀要◇

優陀那日輝を中心とする事観論の史的考察	本 田 栄 秀
Vimutimagga, dy Arahant Upatissa-especially “on Dist inguishing Virtue”	岡 田 栄 照
三大秘法と四法成就との関係について	駒 野 教 爾
日蓮聖人の宗教より見たる大塩中斉の儒教哲学	有 光 友 逸
身延山山内文書調査報告書	中 尾 堯
新宗教勃興の社会史背景	妹 尾 啓 司
法華経中の Sdrvavantdm について	宇 治 行 忠
注法華経御撰集の意義について	山 中 喜 八
仏教興立史上仏識以後の末法と其重要性	木 村 日 紀

◇特別発表一宗教と教育一

公立中学校の宗教教育	若 杉 見 竜
タゴールの教育思想	功 刀 貞 如
宗教と教育	浅 井 円 道
宗門保育の信条を求めて	三田村 竜 全
宗教と教育について一日蓮聖人に関連して一	秋 山 智 孝
◇学園五十周年記念祭記録	
◇「棲神」総目録（自創刊号至第37号）総目録編集者	町 田 是 正
◇開目抄鑽仰（→）科段正誤表	室 住 一 妙

・第38号（昭和40年3月10日身延山短期大学学会刊）A 5 . P . 119

俳諧文学に現れた日蓮聖人	上 田 本 昌
提婆達多品における女人成仏について（2）一大宝積経を中心とせる変成男子一	望 月 海 淑

※変成男子の思想的背景について、大宝積経を論点にすえて考究した労作。

立正平和の核運動	室 住 一 妙
甲斐木喰上人の思想と信仰	中 里 日 応
ヘミングウェイに於ける「山」について	大 森 孝

・第39号（昭和41年2月16日・身延山短期大学学会刊）A 5 . P . 96

思想とその基盤—インド古代経済圏の拡大—	高 橋 堯 昭
提婆達多品における女人成仏（3）	望 月 海 淑
ほとけへの道について	室 住 一 妙
俳諧文学と法華信仰	上 田 本 昌

※庶民文学としての俳諧の世界に、法華信仰の流れをさぐる異色論稿。

中国の家族制度について(研究ノート第四輯)一離婚の問題を中心として一

町田 是正

※中国に於ける封建道徳を支えた儒教倫理体系に対して、法制史的立場より問題の分析

・第40号(学長米寿・新校舎落成記念号・昭和42年12月8日刊) A5 . P.130

藤井日静学長近影・御染筆・落成新校舎写真

身延山短大・高校々舎竝に大講堂落慶式に当りて

身延山第八十六世

身延山短期大学々長

藤井日静

校舎建築経過報告

身延山短期大学々園理事長

望月日雄

謹寿法主(学長)猥下米寿

身延山短期大学々園学頭

松木本興

新校舎落成に際して

身延山高等学校々長

里見泰穂

学長・藤井日静猥下略年譜

身延山短期大学教授

町田是正

日蓮聖人の神祇観一天照太神・八幡大菩薩を中心として一

上田本昌

末法思想に関する試論一「末法為正」(日蓮)の意味を考える一

町田是正

パールフット彫刻からガンダーラ仏へ一大乘仏教の基盤の考察一

高橋堯昭

※数度に亘るインド・パキスタン・アフガニスタン仏跡踏査に基く豊富なる資料を駆使した文化史的考察。

比丘尼教団の成立に就て

筒井妙清

宗教と音楽一宗門の現代化に関連して一

秋山智孝

※宗門の現代化の課題に答えるべく、音楽という実践活動を媒体として、将来へのアプローチを示す。

パストラル・カウンセリングの基礎的原理について一ヒルトナーの所論を中心として一

高橋堯慧

随想・うもれている記念塔

室住一妙

スチープン・クレーンについて

大森孝

◇学園だより◇

新校舎落成式典・身延山大学同窓会有志大会・感想記 望月海淑

・第41号(松木本興先生追悼号・昭和43年11月20日刊) A5 . P.212

前学頭・松木本興教授御影

噫・松木先生

身延山学園理事長

望月日雄

弔辞

宗務総長

片山日幹

松木本興先生を偲ぶ

立正大学長

坂本日深

思いで	学頭	室住一妙
松木本興師を追悼す	元祖山学院教頭	遠藤是妙
松木先生を憶	身延山高校長	里見泰穩
追憶の記	図書館長	林是幹
松木先生を偲びて	山梨・蓮華寺住職	福島義孝
「過渡期」の台学者に贈る	本学教授	疋田英肇
松木兄を偲ぶ喰べあるき	東京・円珠院	荒木義栄
松木静堂先生を偲ぶ	京都・教法院	三木浄達
松木先生を偲ぶ	立正大学教授	中村瑞隆
松木先生を追慕して	京都・瑞光寺	川口智明
凡て是れ修行	本学教授	秋山智孝
老師の微笑	本学助教授	大森孝
古武士の風格	厚徳寮々監	猪俣日康
松木先生を懐う	本学教授	長谷川義浩
生涯を子弟の教育に	本学助教授	上田本昌
宗学論私議—創造宗学への理解—		室住一妙
末法思想に関する—考察（研究ノート第二輯）—「末法為正」（日蓮）の 意味を考える—		町田是正
五種法師についての—試論—		望月海淑
※法華經の實踐規範である五種法師の梵漢両語からその由来を母ねた文献学的研究。		
七世紀初期インドの宗教事情と仏教の基盤—大唐西域記研究—		
宗教の自由について		高橋堯昭
資料—猊座継承関係	故補記	小林誠之 江利山義顯 林是幹
◇第20回日蓮宗教学研究大会紀要◇		
共同テーマ—日蓮聖人の人間像—		
身延山に於ける日蓮聖人の人間的—一面		上田本昌
日蓮聖人はなぜ理解し難いか		勝呂信静
法華人間像		芹沢寛哉
◇紀要◇		
妙蓮寺日眼著「五人所破抄見聞の価値」—二箇相承の成立に関し—		宮崎英修
地涌の人間像（その規定性）—法華の人開頭—		大嶋忠雄
根本仏教の縁起観について		中野裕道

仁王護国般若經疏の研究	若杉見竜
六老日向上人の出自について	佐久間 珧甫
筑前切支丹石城問答小考	本田 栄秀
「マンダラゲ」について	岡田 栄照
本多教学の研究—近代日蓮主義教学研究序説—	村瀬 章遠
「中国の石窟に於ける仏塔の表現について」	坂輪 宣敬
元政上人著書の一考察—特に伝記類について—	丹治 智義
日蓮聖人の良源観	牧野 博悠
持経者道命をめぐる—説経・歌詠み・サロン—	鈴木 治美
moha と mūdha について	田中 一
広破経広破論に表われた否定の意味	久留宮 円秀
梵文方便品十如是に関する異相とその若干の考察	宇治 行忠
翻訳上より見たる因縁の語義について—法華経英訳覚え書—	村野 宣忠

・第42号（体育館落成記念号・昭和45年3月10日刊）A 5 . P . 190

藤井日静学長宛下近影・御染筆（写真）

落成新体育館写真

体育館落成に思う	身延山短期大学々園理事長	望月日雄
因果論考序説		里見泰穩

※有部教理の特色「因果」の論について、その様式・領域・性格を俱舍論に基き論究。

日蓮聖人の宗教理念について	町田 是正
日蓮聖人身延御入山以前の七面山と身延	中里 日応
松木本興先生の教化と近代宗学	上田 本昌

※学頭松木先生三周忌追悼論稿。高弟・上田本昌先生の手になる学風、業績の紹介である。

随想・宗宣言おぼえがき	室住 一妙
日伝上人堂供養法則について	秋山 智孝
遠師法華経音義発刊と読誦に就て	長谷川 寛慶
仏殿納牌堂建立記	林 是幹
◇資料—妙院日導著・安心問答落居	校訂 室住 一妙

※身延文庫本・日導師「安心問答落居」原文の校訂・宗学研究上に貴重な資料を提供。

言語学上の転移について	大森 孝
-------------	------

◇学園だより◇

・第43号(昭和46年2月16日・身延山短期大学学会刊) A 5 . P 126

「安心問答落居」について	室住一妙
法華経メモ・受持について	望月海淑
日蓮聖人にみる人間観(研究ノート)	町田是正
海のシルクロードと仏教—仏教とその基盤—	高橋堯昭
Ellora と Ajanta の石窟寺院	上田本昌

◇第23回日蓮宗教学研究発表大会◇

—共同テーマ・教団論—

教団論へのアプローチとしての二・三の問題点	高橋堯 慧
「教団論」とは何か	丸山照雄
現代の教団より未来の展望	三瓶 嶺 厚
提婆品の挿入位置について	有賀要延
日蓮聖人思想における開限供養の理念と論理	伊藤瑞 叡
「色」の意義に関する論究	中野裕 道
日蓮聖人ご遺文の国語学的研究—助詞「の・が」の待遇表現—	春野正三
三秘の序列に就て	長井弁 順
法華経音義について—本書を従来、日遠の著作とするは誤り—	兜木正 亨
宗宣言と教団	室住一 妙
◇「三秘序列について」—長井弁順師研究発表に対する質疑—	室住一 妙

・第44号(日蓮聖人聖誕七五十年記念号・昭和47年2月16日刊) A 5 . P .106

学長就任挨拶	身延山短期大学々長	望月日 雄
就任に際して	身延山短期大学々園理事長	竹下真 孝
聖誕七五〇年の意義の究明		室住一 妙
※宗祖御誕生の教学的・信仰的意義を考究、今日の課題ととらえた論説。		
日蓮聖人の「上行再誕」について		上田本 昌
日蓮聖人にみる人間観(研究ノート第二輯)		町田是 正
法華経ノート・一切衆生の幸福と安楽のために		望月海 淑
思想とその基盤・メキシコ中央高原文化について		高橋堯 昭
随想・仏となるということ		室住一 妙

ヘミングウェイ「殺人者」に於ける宗教性

大森孝

◇学会彙報◇

○本学教授林是幹先生には昭和46年10月22日、永年の檀林教学の研究に対して第2回「望月賞」の授与に浴した。

・第45号（日蓮聖人身延入山700年記念号・昭和48年2月16日刊）A5
P.250

棲神の意義

室住一妙

※宗祖棲神・此の身延を如何に位置づけるか。いわゆる「身延山論」の展開であり、問題の提起。

身延入山当初の日蓮聖人

上田本昌

日蓮聖人の身延御入山と南部一族の動向—甲斐国上代より南部光行奥州下向まで—

中里日応

出光社長の「道徳とモラルとは完全に違う」を論評し且通説批判に至る

疋田英肇

日蓮聖人佐渡流罪の法制史的考察（→蒙古襲来について）

中里悠光

日蓮聖人にみる人間観（研究ノート第三輯）—懺悔することを中心として—

町田是正

※懺悔と法悦、それはつねに弁証的に昇華され聖人の行動を支えたとなし、宗徒の志向する問題点を提起。

妙法蓮華経如来寿量品の偈中の「諸有修功德」の訓みに就て

間宮秀学

宗教の問題

高橋堯慧

※石津照爾博士の指導下（東北大学研究室）に研鑽を積まれた高橋先生の情熱こもる宗教哲学論。

塔と僧伽—ガンダーラ、アフガニスタンの仏跡遺跡よりみた精神史の一問題—

高橋堯昭

身延に関する紀行について

秋山智孝

碑銘幻想

望月海淑

中論観因縁品の記号論理的考察

里見泰穂

「仏教聖典」に於て、仏教用語として用いられた英語について—その一部—

大森孝

◇トピック「棲神」第老号（創刊号）発見さる！

町田是正 識

— 以 上 —